

加藤ゼミ2006年春合宿課題

「有名無名人の二十歳の頃を調べる」を終えて

BEAMS 設楽洋氏

メンバー: 秋山・山崎・中川

この課題で私たちが調べた人物は、日本でも有名なセレクトショップ『BEAMS』の社長“設楽 洋”氏です。当時は BEAMS 本社に電話をして、インタビューの約束を頂き、実際原宿にある BEAMS 営業統括本部に赴き、社長の秘書でいらっしゃいます、秋元秀一氏に話を伺いました。

今回は、調査の過程やそのインタビューの一部、そしてこの課題が現在の私たちにどのような影響を与えてくれたのかを、少しでも紹介したいと思います。

☆設楽氏をピックアップした理由☆

昨年、この課題を出されてすぐに思ったのが、とにかく有名な人物を調べて、できれば実際インタビューに行って話を伺ってみたい、ということでした。そして、企業などに電話をして、アポをとり、インタビューをする、などといった体当たり的なことは学生の特権ではないかな、とも思いました。

BEAMS の社長、設楽氏を調べようと思ったのは「あんなにも素敵なショップを創った人って、いったいどんな人なんだろう」と、純粋にそう思ったからでした。そして、本屋に行って、BEAMS に関する文献を何冊か読んでいくうちに、設楽氏の存在を初めて知り、強く惹かれました。もし、設楽氏に話を伺えることができれば、今後の学生生活に大きな変化が生まれるのではないかな、という期待がありました。なので、私たちは、素敵なショップの素敵な方、BEAMS 社長“設楽洋”氏を調べ是非お話を伺いたいと思ったのがこの課題の始まりでした。

インタビューは2006年度で、ビームス設立30周年を迎えられるため、設楽社長が大変お忙しい、社長と20年来のお付き合いの秘書の秋元秀一さんにお話を伺いました。その一部を紹介します。

★☆☆秋元さんから見た、設楽社長☆☆☆

秋元さんから見た設楽社長は、お仕事に関しては「アイデアが豊富な方。細かいアイデアのイメージをうまく伝えてクリエイティブな素質が長けている方。」であり、お人柄に関しては「基本的に優しくて、人を悪く言わず、社長が悪口を言っているのを、聞いたことがない！！なかなか可愛げのある人で、人から好かれやすい方。」とおっしゃっていました。インタビューの際に、私たちに下さった資料にあった2005年、2006年の社長自らマツケンやホストに扮した年賀状からも、社長の暖かいお人柄がうかがえました。

★☆☆設楽社長の学生時代☆☆☆～BEAMSの原点～

大学時代の設楽社長については「晴れたら湘南へ波乗りに、雨が降ったら麻雀、夜はディスコへ…勉強はしてなかったんじゃないかな？！」と、秋元さんから意外な答えが返ってきました。また、「とてもミーハーで洋服に関しては、アイビールック、ヒッピー、ヘビメタ…と、流行にころころ身が替わって、未だに流行ものを着たいって言ってますよ。」と、おっしゃっていました。そんな、流行に敏感で、好奇心旺盛な社長の人間性がビームスの経営戦略に生きているのではないかと、感じました。

大学1年生の夏、知り合いの住む横須賀米軍基地で見た光景に、ビームスの原点があるとのことで、お伺いしました。「日本には物や情報が無かった当時、米軍基地のPX（基地内の生協の様なもの）には、巷では見たことが無いようなモノ…ホワイトデニムやコンバースのスニーカーを目にして、感動したそうです。そして、それらを買った時の喜びは忘れられないそうです。その“モノを買って Happy になる気持ち”は、うちの会社のテーマであり、ビームスの洋服を買ってもらった方、手に触れてもらった方に、Happy な気持ちになってもらいたい…未だに、あの時の喜びや感動は続いていると思います。」と語って下さいました。

★☆☆就職と BEAMS 設立☆☆☆

大学を卒業後電通に就職し、その翌年に先代の社長らとともに BEAMS を設立しました。コンセプトは‘UCLA の学生の部屋’で設楽社長が米軍キャンプで見た光景への衝撃や憧れを凝縮したものでした。「これからは今、日本にない洋服を紹介するのがビジネスになるのではないかな?!自分が横須賀のベースキャンプで買った時の感動が味わえるような、消費動向に必ず人がなってくるだろうから、そう言った店をもった方がいい。と言う様なサジェスチョンを電通で働く傍らしていたみたいです。」と語って下さいました。1976年、原宿の6.5畳の小さな店からスタートし、だんだん店舗数が増え、電通をリタイアし、1990年に

BEAMS の代表取締役役に就任しました。

そして 2007 年設立 30 周年を迎えられ、店舗数は約 80 店舗、正社員約 700 人、パート・アルバイトを合わせると、その 3 倍の従業員を抱える大規模なセレクトショップになりました。「最初は今のようなビジョンはなく、町の用品店がどのくらい変貌するか、当人たちも理解してなかったと思います。」と語って下さいました。

☆ インタビューを終えて・・・☆

私たちが普段の大学生活を送っている中で、社会人の人にお話を聞きに行くことや、企業を訪問するということは、ほとんど経験できないことです。今回は、私たちの憧れでもある、大企業の BEAMS を訪問させていただき、社長の設楽氏、秘書の秋元氏に貴重なお話やメッセージをいただくことができ、すごく勉強になり刺激を受けました。

このインタビューを通して感じたことは、BEAMS という会社はとても風通しがよく、社員一人一人がのびのびと働ける環境にあるということ。そしてその自由な社風から、若者たちを惹きつける様々なアイディアが浮かんでくるのではないかということ。そしてその会社の社風というのは、設楽氏の人柄や考えから生まれてきているのだろうと、秋元氏のお話を伺う中で分かりました。

最後にお忙しい中、貴重な時間を割いていただき、私たちにメッセージをくださった設楽社長、インタビューに協力してくださった秘書の秋元氏、そして BEAMS の皆様に感謝申し上げたいと思います。